

学生等がブルーインパルス飛行訓練を見学

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は6月2日（水）、航空自衛隊浜松基地（浜松市）で行われたブルーインパルスの飛行訓練見学に参加者を引率した。

この見学は、コロナ禍により各地で展示飛行が中止になる中、松島基地から浜松基地への移動訓練に併せて行われたもので、自衛官を志す学生等へのPRを目的として実施された。

軽快なエンジン音とスモークを噴出しながら見事な編隊飛行を披露するブルーインパルスを間近で目にした参加者は「久しぶりにブルーインパルスの雄姿を生で見れて良かった」「あれだけ接近して飛行できるなんてすごい。パイロットは厳しい訓練を積んでるんですね」と感嘆の声を上げていた。

約40分の飛行訓練を見学した後、ブルーインパルスの整備員から直接機体や整備について説明を聞いたり質問をする時間もあり、参加者たちは充実した時間を過ごしていた。

その後、隣接する浜松広報館「エアパーク」も見学し、航空自衛隊についてさらに理解を深めていた。

静岡地本は、今後もあらゆる機会を活用して自衛隊への理解促進に努めていく。



自衛隊の多岐にわたる職種を中学生が学ぶ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は、6月7日（月）と8日（火）の2日間、城南静岡中学校の生徒16人に自衛隊職場体験学習を行った。

初日は航空自衛隊御前崎分屯基地（御前崎市）を訪れ、同分屯基地司令・村田一公2等空佐の挨拶の後、基地の隊員が任務や活動について説明した。

また、どの基地にも必ずある消防、電気、警備、車両・無線整備といった仕事を生徒たちが実際に体験。「消防」では、背中に「航空自衛隊」の文字が刻まれた消防服の試着体験や、消防車から伸びたホースでの放水体験などを行った。「電気」では配線と工具を用いて端子を圧着する作業、「通信」では有線構成などについても学び、生徒たちは隊員の働く姿やその業務の一部を体感していた。

2日目は、静岡募集案内所の広報官が講師となり校内で集団行動、ロープワーク、地図の見方、救急法について実習を行った。集団行動では、はじめに自衛官の行動の基礎となる「基本教練」の動作を学んだ後、一列に並んだ9人に代表の生徒が大きな声で号令をかける指揮動作を体験した。

参加した生徒は「航空自衛隊の中にはいろいろな仕事があることを知った」「集団行動の指揮を体験することができて良い経験になった」と話していた。

静岡地本は、今後もこのような機会を積極的に活用し、生徒たちの労働観・職業観の育成の力添えとなれるよう邁進していく。

